

## 市立野洲病院における「具体的対応方針」の報告

※2025 年を見据えた機能別病床機能別病床数および圏域で果たす役割

## 1, 令和 4 年度 第 2 回 湖南圏域 2025 年医療福祉推進協議会で報告した見込み（計画時）の内容

## (1) 病床規模

急性期病棟	地域包括 ケア病棟	回復期リハ病棟	維持期病棟	合計
50 床	49 床	50 床	50 床	199 床

## (2) 維持期病棟の内容

- ・医療療養病棟とするか障害者病棟とするかは、検討中としていた。

## 2, 今回報告内容（基本設計に向けた変更・決定）

## (1) 病床規模（令和 8 年度末開院予定の、新病院における病床規模）

	急性期病棟	地域包括 ケア病棟	回復期 リハ病棟	維持期病棟 (障害者病棟)	合計
令和 8 年度	60 床	49 床	50 床	40 床	199 床
参考 (現・野洲病院)	110 床	48 床	41 床	—	199 床

## (2) 急性期病棟の病床数変更

- ・急性期病棟を 60 床とする。

## (3) 維持期病棟の内容

- ①維持期病棟は障害者病棟とし、40 床とする。
- ②理由

急速な高齢化の進展に伴い、加齢性の神経難病などが増加してくることが地域や圏域の課題と考えられ、適切にリハビリ等の治療を行い在宅につなげていくことが求められる。これに対応するため、急性期一般の一部を障害者病棟にして、ニーズに合った適切な医療サービスを提供できる体制を構築する。

なお、湖南圏域における慢性期患者の圏域内完結率は約 5 割と、他の圏域より一段低くなっている。当院でこの病床機能を確保することは、間接的にこの圏域内完結率の向上にも寄与すると考えられる。

障害者病棟の確保を図ることにより、地域の病床機能の分化・連携を促進することが可能となり、患者の利便性の向上が図られる。また、在宅医療とのつなぎの役割や在宅療養患者の急変時に対応できるなど地域のニーズは高い。さらにレスパイト入院にも対応できるなど、切れ目のない医療提供体制を構築することが期待できる。